令和５年度　第１回下関市市民協働参画審議会　議事概要

１　開催日時　　令和５年９月２９日（金）１０時００分から

２　開催場所　　下関商工会館３階会議室
　　下関市南部町２１－１９

３　出 席 者　下関市市民協働参画審議会委員　１５名（３名欠席）

４　審議会概要

(1)市民部長挨拶
(2)議事

令和4年度市民と行政・市民と市民のパートナーシップ年次報告について
事務局より令和4年度パートナーシップ年次報告（案）について、昨年度答申及び事前に提出された委員のご意見を踏まえ説明。

（委　員）11 ページのパブリックコメントについて、「下関市過疎地域持続的発展計画の策定」に応募総数147件とあるが、E（パブリックコメントの対象外の意見として扱ったもの）の87件についてはホームページ上公表されておらず、それが本当に対象外だったのかどうか確認のしようがないのでは。

（事務局）この春にマニュアルを変更したので、それ以降に公表された結果について、すべて公表することとしている。ただし、誹謗中傷のような意見は、理由を付した上で公表していない。

（委　員）パブリックコメントへの意見として、1点は、置いている場所が分かりづらく、端の方に置かれていることが多い。もう1点は、市民に広く意見を求めるにしては資料の量が多すぎる。市民の意見を聞く姿勢をきちんと示してほしい。

（委　員）パブリックコメントは、自分の意見を出せる場であるが、行政のアリバイ作りに使われており、効果も小さいと思う。それに比べると、アンケートや市長へのはがきの方が費用対効果も大きく、市長へのはがきについては、返事も来る。ただ、市長へのはがきはどこに置いてあるのか分かりにくいし、何を書いたらいいのか分かりにくいので、ポップを使うなど工夫してほしい。

（事務局）パブリックコメントについて、マニュアル上、必要があれば概要版を作成するようにしているので、概要版の添付を求めていくこととする。パブリックコメントの設置場所については、目に付きやすい場所に移すように依頼しているが、目に付きやすい場所は市民への窓口業務等に優先され、また、窓口業務も増加傾向にあることから、どうしても端の方に移されてしまうことが多い。設置場所や何か目立つような仕組みについて検討していきたい。

（委　員）パブリックコメントについて、NPO法人の活動として、この報告書に記載があるパブリックコメントの半分ぐらいは意見を出しおり、これも一つのNPO法人としての活動のツールであると思っている。30歳以下の委員の割合が4%、5%と低いが、恐

らくこの年代でこういうことに参加できるのは大学生ぐらいだと思うが、例えば大学の単位であったり積極的なインセンティブでも考えない限りは、なかなか若い人を取入れるというのは難しいと思う。

（委　員）例えば、パブリックコメントだけについてでもいろんな議論ができそうなので、市民側で議論したり考える場所を設けるという方法もある。いろんな委員会があっても、その中で行えることにも限界があるので、そのあたりは行政だけではなく我々市民側がそういった場所を見つけたり、又は作っていくことも検討に値すると思う。そうして出た意見を委員会と交換することで、限られた時間での委員会の議論という部分を補足できると思う。

（委　員）先ほどの説明の中で、専門性が高いので委員の公募が難しいとあったが、専門性が高くても低くても市民の感覚として意見が述べられる部分があると思う。市の職員がどんどん減っている中で、職員がそれほど高い専門性を有しているのか、また、市が出している案が本当に専門性の上に成り立ったものなのかという思いもある。

（事務局）こちらも専門性が高い人だけの委員会を適正とは考えておらず、専門的な話の中にも公募委員を入れるよう各課に求めているところである。

（委　員）市が出してくる予算等の提案で、本当に市民のためになるのだろうかというものがある。その出された意見は私たちの手の届かないところや議会で話をされるわけだが、その前の段階で、例えば市民に意見を聞いたら、本当にそれを望むのだろうかと考えてほしい。市民の意見を本当に取り入れているのか疑問である。

（委　員）こういった問題はある程度固まってこないと出てこず、固まる前に市民の意見を求めることは多分ないと思う。ある程度固まりほぼゴー、に近づいた時点で意見を求めるので、ほぼそういう形になると思う。ただし、最終的に議会の議決が必要なので、議会で議決が採れなければだめだし、いくらでも修正はできる。それには、いろいろなツールを使って声を上げないといけない。例えば、市長へのはがきを100通出すとか、いろいろな方法があると思う。

（委　員）報告書20ページの委員の年齢構成について、一概に60歳以上といっても、65歳へ定年延長がなされたり、後期高齢者もいたりと実態は様々なので、60歳以上のもう少し詳細な内訳を事務局としては把握しておいてほしい。

（委　員）報告書20ページの委員の男女比率について、ここ5年はほぼ横ばいであり、市として目標値35％を掲げているが、50％を目標としたもう少し積極的なアプローチも必要では。35％については、実現数値として取組んでほしい。

（委　員）役所の考えは市民一般の中でもちょっと固い方なので、委員会の女性委員比率を50％にすぐに上げるのは現実的になかなか難しいと思う。1％、2％と少しずつ増やしていくと、皆確信も持てるだろう。例えば、私の町内会の会長は女性で、副会長も役員も女性が多い。そうすると、50代60代の現役男性も役員に入り始めるという変化もあった。委員会など公的なところはなかなか変わりにくいので、町内など変えられるところから変えていくことも重要かと思う。

（委　員）数字も大事だが、そこにいても発言しなかったらいないのと一緒だと思う。会議で女性が発言しないことで、「ほら見ろ、女はどうせ言わないじゃないか。」などと言われたくないし、私自身女性として生きてきてとてもつらかったので、後に続く人にも同じような思いをさせたくないので、私は発言するようにしている。男性女性関係なしに今日まだ発言していない人は発言してほしい。

（委　員）1人1分ずつぐらいで、今まで出た意見について意見を順に発言してもらってみては。

～各委員が順に発言～（※各発言の要旨は議事概要の最後に記載しています）

（委　員）下関市は審議会などの委員の女性登用率35％を目標とし、女性がゼロの審議会をなくそうとしている。女性の割合が高くなることで議論が活発になる例等もあるので、数字ありきではないが、35％を目指して女性の人数を増やしていくことに意味があると思う。35％を下回らないように市が選任する課と事前協議を始めてから少しずつ効果が出始めているので、今後に期待してほしい。

（委　員）私たちの団体も女性がまったくおらず、お願いしても断られてしまう状況である。自治会活動にしても、作成した回覧物はなかなか見てもらえないし、自治会内での役割分担が増えるので回覧物も極力やめてほしいという声もある。また、自治連合会にしても、負担が多いので連合会をやめたいという自治会も増えてきている。そのような状況で誰も自分の後継者にはなってくれず、この審議会の充て職という立場も含め、自分への負担が大きくなっている状況である。

（委　員）学識経験者を始めとして様々な経験者がこの会議に集まっているので、身近にこの中だけでグループワークをしてみる等、いろいろな協働ができるのでは。まずは、各団体が普段の活動について話をするだけでも、もっと議論が深まるのでは。

（委　員）今日のような会議は、報告事項に時間が大きく割かれ、その後の議論の時間が短くなってしまう。そのため、報告事項は事前にメールで伝えてもらい、議題にしたいことや気付き、それに対する意見等をお互いメールで事前に伝えておくと良いのでは。また、忌憚のない意見が言える小委員会やグループワーク等のセッティングが必要と思う。

（委　員）先ほどメールによる委員間のやり取りの話が出たので、早速グループでグループワークでもできたら良いなと思う。それから、先ほどの女性が会長の自治会の例はとても稀だと思うので、こういうことこそ広報で知らせたら良いと思う。市長へのはがきについては、使い勝手が悪く、はがきだけでは到底足りないのでファクスを送ろうとしたら文面が切れたりしたので、市で改善してもらえればと思う。

（委　員）今日はいろいろな意見が聞けたので、次年度以降、ワークショップ形式も含めて検討したら良いと思う。年次報告の72ページに記載してあるNPO法人にほんごコミュニティが行った日本語スピーチコンテストを私は聞いたが、この報告にある日本は素晴らしいという声以外にも、実際に下関で生活している外国人のなかなか聞けない本音も聞けて、行政側の視点だけでは見えてこない問題も見えてくるので、是非、市役所内でもこういう情報を共有し、こういう場に足を運んでみてはと思う。

（委　員）今日みたいな流れで、市民主導の会議をできればと思う。何かしら別の形で意見を交わしたり、その交わした内容を取りまとめてこの委員会に投げ掛け、投げ返したりと委員会を補足するような仕組ができれば良いと思う。

（委　員）今回の会議の全体像を見て思うのが、この委員会の会議方法が少し形骸化している部分を見直す必要性と、地域によってコミュニティの活況や衰退という濃淡があることと、パブリックコメントの周知の仕方について。会議の方法として、小委員会ではなく民間ベースのグループを使って、そこに補足という形での意見を投げていく方法もあると今日の話の中で見えてきた。そして、委員の年齢構成について、大学生に単位を認めるというのは難しく、また、学生がこの会議の中に入ることも非常に敷居が高すぎて難しいと思うので、それこそ先ほどの民間団体として意見をまとめる中で大学生の意見も拾い上げていくことは可能だと思う。それと、パブリックコメントの周知の仕方について、委員会の中で議論をまとめていきながら、一遍には改善しなくても、回を重ねることで改善できる問題提起があると思う。しかしながら、行政側が改善しようとする一方で受け手である市民の意識がそんなに高くなければ全然機能せず、逆にこの委員会はどうなんだと言われかねないので、市民の意識をいかに参画に向けることができるかという議論の必要性もあると思う。

（３）報告

市民活動支援補助金について

事務局より市民活動支援補助金の審査結果について報告した。

以上で全ての予定を終了し、閉会した。

審議会途中までの意見等について各委員が順に発言した内容の要旨

※「議事概要」は、下記発言も含めた議事全体の概要として作成したため、下記発言と一部重複する箇所があります。

（委　員）
・所属団体の活動の紹介と、災害時等における企業や各種団体、行政との協働について。
・本審議会が学識経験者を始めとした様々な経験者で構成されているため、グループワーク等委員による協働や、各委員が各団体の活動について話をすることについての提案。

（委　員）
・所属団体への必要国家資格を女性が有する割合が低いため、所属団体の女性比率が低いことについて。
・所属団体が実施する災害支援について

（委　員）
・会議の構成委員の年代や性別への偏りについて以前はなかなか疑問視されなかったが、今日ではそれが議論の対象となっていることについて。

（委　員）
・今回のような会議では報告事項に大きく時間が割かれ、その後の議論の時間が短くなってしまうため、メールによる事前の報告や意見交換についての提案。
・忌憚のない意見が言えるような小委員会やグループワーク等のセッティングについての提案

（委　員）
・附属機関等の委員の目標女性比率35%を目指す必要性について。また、現在の市の取組について。

（委　員）
・メールやリモート等のツールに因らずに対面で会議を行うことの必要性及び重要性について

（委　員）
・行政へ意見を伝えるには、パブリックコメントより市長への手紙の方が効果的だという意見。市長への手紙の設置方法について、ポップを使うなど市民の目に留りやすいように工夫することについての提案。

（委　員）
・所属団体の活動の紹介と、市民一人一人が行政や地域への問題意識等をもっと高めるべきだという意見。

（委　員）
・所属団体の役員のなり手に女性や自身より若い層から断わられてしまう現状と、後継者がおらず自身に負担が積み重なる現状について。

（委　員）
・NPO法人としてのパブリックコメントの必要性について
・附属機関等の委員について、大学生を始めとする若年層の参加率を上げるための大学の単位の授与など積極的なインセンティブの必要性について

（委　員）
・当審議会委員でグループメール等を実施する場合の早期着手の要望について
・市長への手紙の使い勝手が悪く、改善してほしいという意見

（委　員）
・住まいの自治会は人口も役員も多く、まとめるのは大変であるが、逆に言えば人材も多く、人材が見付かればいろいろなことができるという現状について
・LINEを使った自身の情報交換について

（委　員）
・各委員のいろいろな意見が聞けて良かったという意見と、ワークショップ形式による審議会の提案について。
・年次報告72ページの活動を実際にその場で見て参考になったという意見と、行政側の視点では見えてこない問題も見えてくるこのような活動については、市役所内でも情報を共有し、是非足を運んでみてはという意見

（委　員）
・今回の審議会のような市民主導の会議の提案。審議会から投げ掛けられた意見について意見を交わしたり、逆に意見を投げ返したりと、審議会を補足するような仕組について。

（委　員）
・意見の総括